



志清同友会
はやし たけき
林下 豊彦 議員

点字ブロックについて

問 令和3年9月の一般質問で、市内の公共施設における点字ブロックについて、床の色と同系色であったり、点字ブロック上にマットが置いてあること等の問題点を指摘したが、その後どのように対処したのか。

答 点字ブロック上のマット等については、状況を確認するとともに速やかな改善を指導した。今年度は鯖江市公共施設等総合管理計画の計画初年度となっており、改修予定の事業の実施設計において、点字ブロックの整備を反映させている。併せて、点字ブロックの利用に支障がないよう定



点字ブロックの
早い整備を

期的に確認しながら、施設のユニバーサルデザイン化に努めていきたい。

積雪時の対応について

問 除雪に関する自助・共助・協働の理念に基づいた取組について、どのような施策があるのか。

答 市民と行政との協働の除雪や保護者等の協力による通学路等の確保が行えるよう、各地区公民館および小中学校に除雪機を配備している。また、ひとり暮らしの高齢者や身体障がい者世帯等の屋根雪下ろしについて、登録ボランティア等への情報提供や除雪費用の助成を行っている。さらに、自治会等が市道の除雪を行う際の車両購入や作業費に対する助成を行っている。



公明党
えんどう たかし
遠藤 隆 議員

高校生によるイタチ研究について

問 福井市の高校生2人がイタチ研究に取り組み、野生動物保護に関する環境省の発表大会で林野庁長官賞を受賞した。市がイタチ研究の協力に至った経緯と取組は。

答 平成29年にイタチによるマルセイユメロン等の被害を受け、農作物への被害を防ぐ対策として、福井市自然史博物館および博物館に関わるボランティア団体と連携し、調査を実施した。ボランティア団体に高校教諭が参加しており、その縁で同校の生物部がイタチ研究を開始した。イタチには、日本固有のニホンイタチと有害鳥獣である外来種のシベリアイタチが存在し、その判別方法の確立が必要であったが、今回の調査研究により、外

見による正確な判別の可能性が分かってきた。また、これまでニホンイタチとシベリアイタチの雑種は存在しないとされていたが、染色体の解析により、雑種の発見につながった。

問 今後の協力や情報共有の体制は。

答 今回の調査研究による判別方法を用いることで、今後はニホンイタチとシベリアイタチを区別して捕獲を実施する。捕獲した個体の解析を生物部に依頼し、解析結果をフィードバックする等の情報共有を行い、より正確な判別方法を確立することで、有害鳥獣の効果的な捕獲に努めていきたい。



イタチ研究による
獣害対策に期待



志清同友会
はやし たけき
林 太樹 議員

デジタル社会の対応について

問 自治会活動のデジタル化の取組および行政の対応は。

答 令和4年4月から区長会連合会が主体となり、自治会等の活動・運営を支援する「結ネットアプリ」を導入している。アプリを各町内の世帯レベルまで導入できれば、区長てい送業務のペーパーレス化により区長事務の負担軽減が図られ、市からの緊急情報や生活情報を迅速に提供できるようになる。

投資的事業の取組について

問 鯖江駅東口等整備計画事業には工事費約25億円が投入されるが、交流人口の増加・経済効果はどのくらい期待できるのか。

答 ハード整備とソフト事業の相乗効果により、県内外から人々が集まる場とした機能の魅力が高まる。また、将来的に駅周辺に新たな店舗や事業所等が充実し、周辺地域への宅地需要が増加するなどの経済効果を生み出していくと考える。

問 メガネストリートを観光スポットにするための再開発への取組は。

答 駅東口整備に伴い、観光客や交流人口の増加、にぎわいの創出が期待できるため、東口からめがねミュージアム、サンドーム福井までのストリート整備に取り組んでいく。



メガネストリートタペストリー